

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県川辺町立川辺中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫
 中学校 中高一貫 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

所在地 〒509-0304

岐阜県加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7

E-mail c40913@mx.gifu-net.ed.jp

Website http://saas01.netcommons.net/kyoikukawabe/htdocs/kawabe_jrh/

幼児児童生徒数 男子 148 名 女子 135 名 合計 283 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、総合的な学習の時間を中心に学習と体験活動を統合し、発展させ、地域とのかかわりに重点を置いた「あらたまプロジェクト」を立ち上げている。

具体的には、地域に学び、地域と共に考え、地域に活かす活動を柱に、①地域との連携活動、②地域の公共施設の清掃・美化活動、③社会福祉施設での訪問・交流活動、④社会福祉体験活動、⑤あらたま志集会（地域の方々との全校グループディスカッション）を行った。

①地域との連携活動

1 年生が、地域の防災について学び、「安心防災ブック」を作成した。作成した冊子を、民生委員の協力を得て、川辺町に住む一人暮らしの高齢者宅を訪ね手渡した。

2 年生が、地域のパン製造販売店の協力を得て具材開発に取り組み、18種類のオリジナル具材パンを商品化し、町主催のふれ愛祭りで販売した。

②地域の公共施設の清掃・美化活動

1年生が、町内の「ふるさと愛好会」の協力を得て、大谷公園で芝桜の苗千株を植えた。また、地域の山で、登山道沿いの木々に、樹木の名称などを記した手作りプレート24枚を取り付けた。

3年生が、地域に貢献する活動として川辺町公民館、川辺町図書館、山楠公園、児童館の清掃活動を行った。

③社会福祉施設での訪問、交流活動

3年生が、デイサービスセンターで介護体験を行った。地域の福祉の実情を学び、高齢者の方々の立場に立って考えることや、思いやりのある心の豊かさや生きる力を身に付けることができた。

④社会福祉体験活動

3年生が、川辺町の福祉について講話を聞いたあと、高齢者体験や盲目体験などの学習を行った。ユニバーサル社会に興味・関心をもち、積極的にその実現を図るために活動していこうとする意欲が身に付いた。

⑤あらたま志集会（地域の方々と全校グループディスカッション）

全校生徒が学年を超えて小グループに分かれ、そこに地域の方々が入り、メインテーマ「共力」についてグループディスカッションを行った。教科の学習と地域をフィールドとした様々な体験から学んだことを自らの生き方、在り方に結びつけることで、地域の中での自己有用感を高めることができた。



福祉施設訪問



社会福祉体験活動



「安心防災ブック」の配付



あらたま志集会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

川辺町史 通史編 資料編 (共同印刷株式会社)
飛騨川 (西川印刷株式会社)
川辺学研究 (東海電子印刷)
かしお風土記 (三伸印刷)
川辺町役場HP (<http://www.kawabe-gifu.jp/>)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

総合的な学習の時間を、地域貢献科「あらたまプロジェクト」と名づけ、E S D活動の中心に位置づける。「あらたまプロジェクト」では、豊かな自然と歴史・文化をもつ川辺町について学習し、地域の人々と触れ合う体験的な学習を取り入れながら、地域社会への理解を深め、そのよさや抱える課題を明らかにしていく。その上で、行政や企業、諸団体にも連携、協力を依頼し、地域活性化の取り組みや、環境保全、防災などについて学習し、具体的な地域貢献活動を考え、実践していく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

3カ年を通して、郷土に関心と愛着を持ち、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し問題解決する資質や能力を育てる。具体的には、川辺町の特色に触れる内容を中心に、1年生では「郷土川辺の理解を深める学習」、2年生では「郷土川辺の一員として自分を見つめる学習」、3年生では「郷土川辺に貢献する学習」をそれぞれ行う。体験的な学習を多く取り入れ、教科、道徳、特別活動等、学校のすべての教育活動を統合、発展させ、地域に学び、地域に活かし、つながりを大切にする学習活動を仕組む。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

「郷土川辺町」を意識し、主体的に課題意識をもって学習活動に取り組むことができたかについて、生徒の学習記録や成果として作成させる発表のまとめ、掲示資料、生徒への指導記録をもとに、随時、形成的評価を行い、次の活動につなげている。1年生は、「地域を知る」ことが、「地域のために何が貢献できるか」に発展し、安心防災ブックの作成や、樹木プレート取り付けなどの主体的なアイデア創出につながっていった。また、民生委員との懇談会を年2回開催し、地域の方々から評価を得る機会としている。開かれた教育活動について、地域としてもさらに協力をしたいとの意見をいただいているが、学校管理内の時間に地域と触れ合う活動をいかにつくるかが難しく課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

「あらたま志集会」については、町内の小学校の多くの教員に参加してもらい、活動についての研究会を行った。また月1回の学校だよりとホームページに活動の様子を掲載している。今年度は積極的に新聞社に投げ込み取材を依頼した。その結果、地域の人々に中学校の教育活動を知っていただくことになり、報道後に電話や、訪問により多くの反響をいただいている。地域の人々と触れ合う活動を多く計画しているため、その後の活動のやりやすさにつながる好循環が生まれつつある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

ESDの活動が川辺町の活性化につながることから、川辺町役場の企画まちづくり課には多くの協力をいただいている。また、地域と関わる活動には民生委員の会、ふるさと愛好会、ライオンズクラブ、地元企業から協力をいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

交流実績は今のところありません。今回の報告により、同様な活動を行っている中学校について、コンタクトをとり、活動の交流を行っていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

本校は小さな町にある唯一の中学校である。ESDの活動が地域をフィールドとして行われることは、地域の活性化にもつながるので、生徒は地域で歓迎されながら活動を行うことができている。このことが主体的な学習にもつながっている。次期学習指導要領の理念である、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという「社会に開かれた教育活動」の実現が出来つつある。

（3）平成30年度の活動計画

1年生

「川辺を知ろう」のテーマで、「生活環境」「自然歴史」「産業文化」「人権福祉」の4つの観点から町をより良くするために今の自分達は何ができるのかについて課題を設定、追究する。（年間時数 50時間）

2年生

地域の様々な職場での職場体験を行う。起業家学習として地域の企業から協力を得て、実践を伴った学習を行う。（年間時数 70時間）

3年生

「あらたまプロジェクト」によって培った地域社会の一員としての自覚をもとに、社会福祉や人権について地域社会に貢献できることを考え、「ボランティア活動」として計画・実践する。（年間時数 70時間）